



の件費を大きく削減できるし、国立の施設も誘致しやすい。しかし、これは簡単な話ではありませんから、現実的には、いまできることを少しずつ積み上げていくなか、先ほど近代美術館の構想をお話しされましたが、私は「佐伯祐三美術館」をつくってはどうかと思います。もちろん立派なハコモノはいりません。大阪駅前ビルのワンフロアを、美術館に改装するだけです。佐伯祐三の作品は大阪市が持っていますし、ビルは大阪市のものだから家賃も安い。大阪駅に降り立った人は『佐伯祐三美術館』を目にするし、駅周辺の名立たるホテルの宿泊者がふらりと立ち寄って大阪の芸術文化に触れることもできる。それだけでも大阪のイメージは変わります。それもわずかな投資です。

**堀井** まずハードありきという考え方では、そういう発想は生まれません。おっしゃるように大阪駅北ヤードにも、商業施設やホテルなどの一角に佐伯祐三展示コーナーでもつくれば、わずかな維持費で賄える。またその費用を北ヤード地区全体のマネジメントのなかに組み入れれば、個々のテナント負担も軽くて実現できるでしょう。

**山崎** ソフトを中心に考えれば、工夫の仕方はたくさんあります。例えばデザイン面で大阪を活性化させる方法として、30年前程、私は「Artist in residence (アーティストのための住居)」という制度をつくってはどうかと行政に提案しました。アメリカには、さまざまな分野にこの考え方があります。つまりそれと同じように、行政でも財界でもいいですが、若い有能なデザイナーを呼んで来て、公営住宅を無償で提供し、給料も出して、思う存分活動してもらおうのです。10年もすれば有能なデザイナーたちのコロニーができ、文化、経済、教育面で大きなプラスになるでしょう。じつは兵庫県が同じようなことを実現したのです。佐渡裕芸術監督率いる兵庫県立芸術文化センターが、世界中にオーディションをかけて若手の有能な演奏家を集め、自前のオーケストラをつくりました。演奏家たちには給料が支払われ、毎日練習できるように防音装置付きの県営住宅が提供されました。市民や子どもたちもレベルの高い音楽を地元で聴くことができ、みんなハッピーです。世界から来た音楽家たちは、兵庫県に恩を感じています。

**堀井** そうですか。じつは来年、水の都・大阪をもっとアピールしようと、官民協力してアートをテーマとした『水都大阪2009』というイベントが行われる予定です。Artist in residenceの考えを少し取り入れて、公募したアーティストを大阪に住み込んでもらい、市民と一緒にアート作品を作ろうというコンセプトです。

## 人材育成

**山崎** それはいい。素敵なアイデアです。私は今、大阪市内でLCA大学院大学という株式会社立大学の学長をしています。キャンパスもなければ、運動場もない、ビルの中のワンフロアの大学です。ここは企業家を育成すると同時に、各企業社員の知的向上を図るための大学院です。学生の質はとても高く、会社経営者が何人もいます。一方、東京にも、私どもと同じように企業から派遣された学生を教育しているところがあります。品川駅にある『ルネッサンスセンター』という多摩大学のサテライト校。私はここへ講師として招かれたことがあります。そのとき感じたのが、学生を派遣する企業の姿勢が大阪と東京で大きく違うことでした。企業は数多くの優秀な人材をここへ派遣するだけでなく、PTAよろしく各企業の役員が参観にやってきます。「うちの学生はしっかりやっていますか」って。だから学生たちは、自分よりもより親である会社にも恥をかかせたくない一心で一生懸命勉強します。大阪にそこまで熱心な企業はありません。しかしルネッサンスセンターに学生を派遣する企業の半分は、大阪出身の企業です。不思議なことに、大阪人が東京に来てとたんにカッコ良くなるのです。おそらく東京に来て、ステテコと腹巻きでまちが歩けるという大阪のセンスに気づくからなのかもしれません。

**堀井** 大阪の企業が東京へ流出するのも、その辺に理由があるのかもしれないね。

**山崎** 出て行ったのは企業だけではありません。大学もそうです。

**堀井** 大阪は工場等制限法があった時代に、まちから徹底して大学を追い出しました。工場等のなかに大学を含めるなんて、じつにけしからぬ法律があったものですが、正直にそれを実行してしまっ

**山崎** 大阪は、その制限法の前から大学を追い出してきました。これほど大学がない町は珍しい。現在、大阪市内にある大学は大阪市立大学だけで、全国の大都市のなかで大学町と呼べるものがない希少な町になってしまいました。まちに大学があるということは、本来の学業や研究もさることながら、青年たちが集まって賑わうことも大事で、それが町を活気づかせます。だから現状は、とても困ったものです。しかし先ほどから申し上げてきたように、今できる小さなことはいくらでもあります。LCA大学院大学のようなことも、大阪文化を守るための「つかえ棒」にはなるでしょう。そういう努力を少しずつ積み上げていくのもひとつの方法です。

**堀井** 大学が都心にサテライトをつくり始めました。阪大も21世紀懐徳堂を立ち上げています。学生が繰り出すことで、まちが活気づきますからね。

**山崎** じつはLCA大学院大学の学長室から、北新地の繁華街が見おろせます。これはこれでちょっとつらい。というのは、学生たちに「おい、一杯呑みにいっか」って気軽に繰り出してしまうと、えらい散財になって…。

**堀井** そういうサロンで自由闊達に議論するから、ソフトな発想や多様な文化が誕生するのでしょうか。今日も忌憚のない貴重なご意見を伺いました。今後、私たちの進むべき道のヒントを探りたいと思います。ありがとうございました。

平成20年7月7日／サントリー文化財団(大阪市北区)にて